

## 2026年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年1月14日

上場会社名 株式会社メディアドウ 上場取引所 東  
 コード番号 3678 URL <https://www.mediado.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 藤田 恭嗣  
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長 CFO (氏名) 莊田 明史 TEL 03-6212-5111  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切り捨て)

## 1. 2026年2月期第3四半期の連結業績 (2025年3月1日～2025年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年2月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	80,508	6.7	1,908	12.9	1,972	20.1	1,632	78.9
	75,442	8.8	1,691	15.3	1,641	14.2	912	5.9

(注) 包括利益 2026年2月期第3四半期 1,618百万円 (76.5%) 2025年2月期第3四半期 916百万円 (△22.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
		円 銭	円 銭
2026年2月期第3四半期	107.65	—	—
2025年2月期第3四半期	60.29	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
2026年2月期第3四半期	百万円	55,505	百万円	18,921	%	33.7
2025年2月期	53,160		17,708			33.1

(参考) 自己資本 2026年2月期第3四半期 18,728百万円 2025年2月期 17,599百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年2月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
—	—	0.00	—	36.00	36.00
2026年2月期	—	0.00	—		
2026年2月期(予想)				40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

## 3. 2026年2月期の連結業績予想 (2025年3月1日～2026年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社（社名）株式会社AIStep、除外 一社（社名）－

(注) 詳細は添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記）」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更に関する注記）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年2月期 3Q	15,205,174株	2025年2月期	15,172,972株
-------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2026年2月期 3Q	25,398株	2025年2月期	21,705株
-------------	---------	----------	---------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2026年2月期 3Q	15,166,036株	2025年2月期 3Q	15,133,643株
-------------	-------------	-------------	-------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に掲載されている業績等の見通しに関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料 2 ページ「1. 経営成績等の概況」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

当社は、2026年1月14日に機関投資家及びアナリスト向け決算説明会を開催します。説明会資料は、説明会終了後 T D n e t にて開示予定であります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(表示方法の変更に関する注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(重要な後発事象に関する注記)	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

#### 連結業績

(単位：百万円)

	2025年2月期 第3四半期 連結累計期間 (2024年3月1日から 2024年11月30日まで)	2026年2月期 第3四半期 連結累計期間 (2025年3月1日から 2025年11月30日まで)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	75,442	80,508	5,066	6.7%
電子書籍流通事業	69,471	75,017	5,546	8.0%
戦略投資事業	6,992	6,455	△536	△7.7%
営業利益	1,691	1,908	217	12.9%
経常利益	1,641	1,972	330	20.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	912	1,632	720	78.9%

(注) セグメント別売上高は、セグメント間取引等の調整額を含まない金額のため売上高の合計額とは一致しません。

当社グループは著作物を公正利用のもと、できるだけ広く頒布し著作者に収益を還元するという「著作物の健全なる創造サイクルの実現」をミッション、「MORE CONTENT FOR MORE PEOPLE!」をビジョンに掲げ、日本における文化の発展及び豊かな社会づくりに貢献するため、積極的な業容の拡大と企業価値の向上に取り組んでおります。

日本国著作権法第一章 総則の第一条に謳われる『著作物は文化の発展に寄与』、『著作物の利用と保護の調和』を第一義に、デジタル化された数多くの著作物をより多くの人に届け、その利用における適正な対価を著作者に還元し、また新たな著作物が創造されるよう“著作物の健全なる創造サイクル”的翼を担うことを目的に事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、既存商流の成長及び2025年7月より取引開始となった新規商流が寄与し、電子書籍流通事業の売上高が好調に推移しました。戦略投資事業においては、前期末にエブリスタが連結対象外となった影響により減収となりましたが、IP・ソリューション事業における取組みが貢献し、前年同期比でセグメント損失が縮小しました。また、第1四半期に関連会社MyAnimeListの株式売却益を計上したことにより親会社株主に帰属する当期純利益が大きく伸長しましたが、期初計画に織り込み済みであり、通期計画の達成に向けては想定通りに進捗しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は80,508百万円（前年同期比6.7%増）、営業利益は1,908百万円（前年同期比12.9%増）、経常利益は1,972百万円（前年同期比20.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,632百万円（前年同期比78.9%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別の経営成績は次のとおりであります。

なお、2026年2月期を初年度とする新たな中期経営計画の策定を契機として、第1四半期連結会計期間よりSC (Sustainability Creation) 事業を「戦略投資事業」の区分に含める報告セグメントの変更を行っております。そのため、前年同期比較においては、当該変更後の報告セグメントの区分に基づき作成した前年同期の数値を用いております。

#### (電子書籍流通事業)

電子書籍流通事業については、国内最大の電子書籍取次事業者として引き続き「コミックシーモア」「Amazon Kindle」等の電子書店への電子書籍の取次や電子書籍配信ソリューションの提供を行いました。2025年11月末時点では、お取引先としての出版社は2,200社以上、電子書店は150店以上、取扱コンテンツ数は312万点以上、出版社や電子書店とのキャンペーン管理数は年間2.0万件以上にのぼっております。近年、電子書籍市場が拡大するなかで出版社と電子書店が取り扱うコンテンツ数とキャンペーン数は増大し続けており、電子書籍の流通にかかる運用コストは年々増加しております。電子書籍取次の存在意義が高まるなか、当社は取引先各社との基幹システムの連携に加え、話配信管理システム等、取引先のニーズに合わせた新規システムの開発を行なうほか、取次に関して蓄積されたノウハウに基づきめ細やかなサポートを通じて、電子書籍の円滑な流通及び出版社と電子書店の業務の効率化、配信事故率の低減に貢献することで、電子書籍市場そのものの拡大と、流通シェアの拡大を目指しております。

当第3四半期連結累計期間においては、大手書店を中心とした既存商流の好調、及び2025年7月より取引を開始

した「めちゃコミック」の貢献により、増収増益となりました。

その結果、売上高は75,017百万円（前年同期比8.0%増）、セグメント利益は3,710百万円（前年同期比1.7%増）となりました。

#### （戦略投資事業）

戦略投資事業においては、中長期における注力事業として国際事業、IP・ソリューション事業、SC (Sustainability Creation) 事業の3事業を展開しております。

国際事業については、主に海外子会社によるSaaS型ビジネスモデルによる出版社向けDXサービスの提供が堅調に推移したほか、株式会社NTTドコモとの北米向け電子コミック配信サービス「MANGA MIRAI」の受託売上を計上したことにより増収となった一方で、国際事業全体の体制強化に係る販管費の増加により減益となりました。2025年4月に公表した中期経営計画においては国際事業を注力領域と位置づけ、今後国内に限らず海外においても、一層「ひとりでも多くの人へ」日本のコンテンツを届けるため、貢献範囲の拡大を図ります。日本のコンテンツはその多くが未翻訳となっているほか、海外へのコンテンツ展開に関しては翻訳コストや流通網の確保など、課題も数多く存在しております。当社グループは2016年設立の米国子会社Media Do International, Inc.で国内出版社のコンテンツの翻訳を含む海外展開を支援しているほか、35年以上の歴史を持つFirebrandグループを通じて米国の5大出版社を含む300以上の海外出版社におけるネットワークと、本の流通・プロモーションのノウハウを保有しております。こうした海外の出版業界における強みを活かすと共に、高品質な多言語翻訳及びオーディオブック制作を中心としたマルチユース化を短時間・低成本で実現する「MDTS (MediaDo Translation System)」の開発・提供、ならびに現地流通網の確保に向けて注力することで、当社グループは日本コンテンツの海外展開をワンストップで支援するサービスを提供してまいります。

IP・ソリューション事業については、日本文芸社におけるコンテンツ創出とそのマルチメディア化推進、フライヤーにおける本の要約サービス提供、そのほかオーディオブックの制作や電子図書館サービスの運営を通じて、出版コンテンツ市場拡大への貢献を目指しております。日本文芸社においては、筋肉質な収益構造化に向けた取組みを進めております。書籍の要約サービスを提供するフライヤーは、法人契約数が着実に増加したことで前年同期比では増収、引き続き営業黒字となりました。また、2025年9月に株式会社AIStepを子会社化し、グループ収益力の強化に取り組んでおります。

SC事業については、行政や金融機関等との連携を通じて、地域活性化に繋がる事業を手掛けることで新たな価値を生み出し、持続可能な社会づくりに貢献することを目指しております。がんばろう徳島が運営する男子プロバスケットボールクラブ「徳島ガンバロウズ」は、B3リーグ参入2年目の2024-2025シーズンにおいて営業黒字を達成しております。2025年9月から始まった2025-2026シーズンにおいても、増収増益を目指しております。

その他、小説投稿サイトを運営するエブリスタについて、2025年2月の株式譲渡に伴い連結対象外となったことが売上高の減少要因となったものの、特にIP・ソリューション事業における改善進捗等が損益改善に寄与し、前年同期比で営業損失が縮小しました。

その結果、売上高は6,455百万円（前年同期比7.7%減）、セグメント損失は453百万円（前年同期はセグメント損失795百万円）となりました。

#### （2）当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、受取手形、売掛金及び契約資産が4,494百万円増加した一方、現金及び預金が1,484百万円、流動資産「その他」が413百万円それぞれ減少したこと等により、前期末と比べ2,344百万円増加し、55,505百万円となりました。

負債合計は、支払手形及び買掛金が1,396百万円、未払法人税等が711百万円それぞれ増加した一方、長期借入金が1,111百万円減少したこと等により、前期末と比べ1,132百万円増加し、36,584百万円となりました。

純資産合計は、利益剰余金が1,086百万円増加したこと等により、前期末と比べ1,212百万円増加し、18,921百万円となりました。

#### （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、電子書籍流通事業における既存商流ならびに新規商流の順調な成長、戦略投資事業における営業赤字縮小等が寄与し、前年同期比で増収増益となりました。

引き続き電子書籍流通事業においてはお取引先のニーズに応え、寄り添う質の高いサービスを提供し、必要とされ続ける事業者となることでシェアを拡大し、電子書籍市場の成長を上回る事業成長を目指します。戦略投資事業においては投資の適正化を進めるとともに、開始3年目以降の事業についてROIC 8%を下回る場合には事業ポートフォリオの見直しを検討し、赤字幅縮小を実現することで通期計画の達成を目指してまいります。

なお、現時点では2025年4月14日公表の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	13,591	12,107
受取手形、売掛金及び契約資産	24,033	28,528
その他	2,335	1,921
貸倒引当金	△0	△0
流动資産合計	39,960	42,557
固定資産		
有形固定資産	582	529
無形固定資産		
のれん	4,198	4,015
ソフトウエア	624	581
ソフトウエア仮勘定	9	29
その他	1,207	1,135
無形固定資産合計	6,039	5,761
投資その他の資産		
投資有価証券	5,669	5,735
繰延税金資産	310	310
差入保証金	468	469
その他	135	149
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	6,577	6,656
固定資産合計	13,199	12,948
資産合計	53,160	55,505

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,273	29,669
短期借入金	52	51
1年内返済予定の長期借入金	1,455	1,365
未払法人税等	27	738
賞与引当金	42	84
その他	2,369	2,608
流動負債合計	32,220	34,518
固定負債		
長期借入金	2,358	1,247
練延税金負債	81	67
退職給付に係る負債	621	584
その他	169	165
固定負債合計	3,231	2,065
負債合計	35,451	36,584
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,990	6,019
資本剰余金	5,901	5,961
利益剰余金	4,645	5,731
自己株式	△48	△48
株主資本合計	16,488	17,663
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	127	193
為替換算調整勘定	984	871
その他の包括利益累計額合計	1,111	1,064
新株予約権	—	20
非支配株主持分	108	172
純資産合計	17,708	18,921
負債純資産合計	53,160	55,505

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
売上高	75,442	80,508
売上原価	67,865	73,093
売上総利益	7,577	7,415
販売費及び一般管理費	5,886	5,507
営業利益	1,691	1,908
営業外収益		
受取利息及び配当金	29	37
為替差益	—	60
持分法による投資利益	5	46
その他	16	6
営業外収益合計	51	150
営業外費用		
支払利息	26	27
為替差損	1	—
投資事業組合運用損	28	3
寄付金	40	54
その他	3	1
営業外費用合計	100	86
経常利益	1,641	1,972
特別利益		
固定資産売却益	2	—
関係会社株式売却益	—	531
事業譲渡益	18	—
特別利益合計	20	531
特別損失		
投資有価証券評価損	43	—
事業整理損	23	—
和解金	—	20
特別損失合計	66	20
税金等調整前四半期純利益	1,595	2,484
法人税等	698	818
四半期純利益	897	1,665
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△15	32
親会社株主に帰属する四半期純利益	912	1,632

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
四半期純利益	897	1,665
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△25	64
為替換算調整勘定	44	△113
持分法適用会社に対する持分相当額	0	1
その他の包括利益合計	19	△47
四半期包括利益	916	1,618
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	932	1,585
非支配株主に係る四半期包括利益	△15	32

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

(1) 連結の範囲の重要な変更

当社の連結子会社である株式会社フライヤーが2025年9月1日付で株式会社AIStepの全株式を取得したこと  
に伴い、当第3四半期連結会計期間より同社を連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、株式会社MyAnimeListについて、当社保有株式の全部を譲渡したため、  
持分法適用の範囲から除外しております。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日）等を第1四半期  
連結会計期間の期首から適用しております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はあ  
りません。

(表示方法の変更に関する注記)

(四半期連結損益計算書)

海外子会社における出版業界向けソリューションサービスに係る運用費用の一部について、従来、「販売費及  
び一般管理費」として計上していたものを、第1四半期連結会計期間より「売上原価」に含めて計上することと  
しました。

この変更は、海外子会社における今後の事業拡大を見据えた損益管理体制を強化し、売上高と売上原価の対応  
を明確にすることで売上総利益をより適切に表示するために行なったものであります。この表示方法の変更を反映  
させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「販売費及び一般管理費」に含めて  
表示していた632百万円を「売上原価」に組替えております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

当第3四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)	
税金費用の計算	税金費用については、当社及び一部の連結子会社において、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半  
期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれん償却額は、次  
とおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
減価償却費	487百万円	554百万円
のれん償却額	492百万円	344百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年3月1日 至 2024年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	電子書籍 流通事業	戦略投資 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	69,432	6,010	75,442	0	75,442
セグメント間の内部売上高又は振替高	39	981	1,020	△1,020	—
計	69,471	6,992	76,463	△1,020	75,442
セグメント利益又は損失 (△)	3,648	△795	2,852	△1,161	1,691

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年3月1日 至 2025年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	電子書籍 流通事業	戦略投資 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	74,985	5,503	80,489	19	80,508
セグメント間の内部売上高又は振替高	32	951	984	△984	—
計	75,017	6,455	81,473	△964	80,508
セグメント利益又は損失 (△)	3,710	△453	3,257	△1,349	1,908

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループにおいては、国内電子書店向け取次事業を主とする「電子書籍流通事業」と、取次事業のなかで培ってきた各種ネットワークの活用により第二の収益軸の創出を目指す事業群である「戦略投資事業」の2つを報告セグメントとしております。

そのなかにおいて、株式会社がんばろう徳島でのプロバスケットボールチーム運営に係る収益については、従来、事業セグメントの定義に該当しないものとして「調整額」にて集計しておりましたが、2026年2月期を初年度とする新たな中期経営計画においてSC (Sustainability Creation) 事業が定義されたことを機に、第1四半期連結会計期間より「戦略投資事業」の区分に含めております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、当該変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。